

畏友・久保田隆三郎君の帰天を悼んで。

パソコンのトラブル続きで、遂に読んでもらえなかった手紙を送ります。今晚が彼のお通夜とは、何という驚きと悲しみ。

28－29日は山口で新任研修があり、残念至極ですがどうしても駆けつけられません。最後まで勇ましく生き抜いた彼のために、また心を込めて最期を看取られたご家族の方々のために祈っています。永遠の安息を彼に与え、尽きぬ命の喜びで満たしてください。

中村健三 合掌

\*\*\*\*\*

一期一会

坪内君からちくいち、貴兄の苦しい近況を知らされ、心配しています。

吐く息も吸う息もきつと難渋しているのでは。

きつと貴兄を取り囲んでハラハラしながら、奥さんも子供さんたちも

懸命の看護に努めておられることでしょう。

創世記には「神は地のチリで人を形づくり、命の息をその鼻に吹き入れ、こうして人は生きる者となった」とあります。

命はまさに神の大きな賜物であり、また尊い預かりものでもあります。

人の世の常である生・老・病・死を前に、苦しい定め・諦めとして  
ただ泣き寝入りするばかりではありません。

「わが神よ、わが神よ、どうして私を見捨てられたのですか」と、  
イエスと共に孤独と悲哀と絶望の暗闇に叫ぶ者はきっと、  
イエスの救いの言葉「今日、あなたは私と共に樂園にいる」を  
耳にすると信じています。

信じる心と疑う心、委ねる心と逆らう心、  
私たちは日々この両極を行きつ戻りつしながらも、  
最終的に神の恵みと慈しみが勝利をおさめるのでしょう。

毎朝の7時から下松教会でミサを捧げていますが、  
特に心をこめて貴兄の今日一日の苦しみと痛みとを、十字架のイエスの  
奉獻に合わせて父である神に捧げています。  
「父よ、あなたこそ私の神、私のすべてをあなたの御手に」。

この三月には久しぶりに会えて、  
爽やかな顔つきと朗らかな声に大喜びでした。  
一期一会、貴兄と同期生であったことを心から感謝しつつ。

中村健三      合掌

\*\*\*\*\*

2011/7/27(水) 22:29 usjii

安嶋 受信 11/07/29 18:18

mail のチェックが遅くなって済みません